

オプション倶楽部 TV

2024 年 11 月「政治経済イベント分析」補足 Q&A

10 月の日経平均は、上旬は続伸して 40000 円台の再突破を目指すも、半ば以降は失速してしまいました。需給もトレンド形成の要因になっているものの、大きくはドル円レートに振り回されての乱高下ようです。

そのドル円レートに大きく影響しそうな日本の政局と米大統領選ですが、売坊先生からみると、それよりも今後は中央銀行、そして新首相・大統領との“関係”が注目点になりそうとのこと。その理由を検討してみましょう。

<資料 P2>

——10 月上旬の日経平均は 9 月末に付けた高値を突破して一時 40000 円を超えました。ここまで上げたのは、なぜだと思えますか？

まず、9 月 6 日の裁定買い残が 10 月 11 日にかけて 9000 億円以上も積み上がっていたことが挙げられるでしょう。さらに、米ドル円が 9 月 13 日の 140 円台から 10 月 17 日に 150 円を突破する上昇（円安）傾向を続けていたことが後押ししていたと考えています。

——しかし、下旬になると失速し、以降ゆるやかな下降トレンドを描いているようにみえます。テクニカル的には 37000 円を割れると一段安となりそうな様相です。日経平均が勢いを失ったのは、なぜだと思えますか？

これは自民党の裏金問題が大きく影響していたと考えています。年金や生保などの海外投資家は、法律を守らない国会議員が証券取引法などを作成する国への株式投資に、かなりのリスクがあると感じたはずで。

——米大統領選後の米国株の動きを見極めるための様子見というのもあるのでしょうか？

日米の選挙結果を見極めたいということで、買いの手が引っ込んだこともあるでしょう。

——ドル円相場が10月に入って上昇（円安）に動意づいたのは、なぜだと思いますか？

倫理的不信感からの日本売りですね。トリプル安です。

——ただ、10月27日の衆院選で自公が過半数割れとなるも、翌28日の日経平均は、むしろ反発となりました。市場は事前に過半数割れを織り込んでいたのでしょうか？

これは織り込み済みということでのテクニカルな反発の可能性が高そうです。

——もっとも、10月末には反落して行って来いとなりました。これもまたドル円の調整に左右されたのでしょうか？ 先生は10月31日の日銀金融政策決定会合後の植田総裁発言が揚げ足取り的に材料視される可能性を指摘されていました。

ドル円の動きは、かなり日経平均の騰落に影響を与えています。今後は「日銀がいつ金利を引き上げるか？」がポイントでしょう。

——売坊流の日経225CALL11月限売り戦略としては、証拠金の資金繰りにさえ余裕があれば、ここまでは都合の良い展開だったといえるのでしょうか？

11月限は慎重に資金管理をしていれば、安心してられる展開だったと考えています。

＜資料 P3＞

——11月8日に11月限が満期（SQ日）を迎え、ラージ先物も満期となるメジャー限月の12月限が本格的に始まります。どのような点に注目していますか？

裁定買い残も膨らんできています。また、日銀利上げへの思惑からの円高も想定しておきたい環境になっています。再び荒れる展開を想定しています。

——自民党は11月11日に特別国会を召集する方針です。ここではどのような点に注目していますか？

石破首相となるのか、野田首相となるのか、玉木首相になるのかという点です。

——11月12日に日経平均の6%弱を占める東京エレクトロン（8035）の決算発表があります。7月から15000円近く値を下げっていますが、先生は注目されていますか？

日経平均のウェイトが10月末で5.91%と高いので、注目している銘柄です。

——また、同日に日経平均の5%弱を占めるソフトバンクグループ（9984）の決算発表があります。先生は注目されていますか？

同様に大きなウェイトがありますので、ファーストリテーリングとともに注目しています。

<資料 P4>

——10月中旬、S&P500はトランプ氏の返り咲きを織り込んだのか、史上最高値を更新しました。しかし、月末には大きく調整が入っています。これは米大統領選を前にした利食いによるものでしょうか？

選挙結果で大きく変動する可能性もありますので、当然利食いが入りやすい展開でしょう。

——先生が紹介された賭け屋のサイトによるとトランプ氏が1.75倍で、ハリス氏が2.3倍で、トランプ氏が優勢です。これとは逆の結果となると、トランプ氏はゴネるでしょうし、市場が大きく反応する可能性があるのでしょうか？

選挙結果が確定しないような場合は大きく調整する可能性もあるでしょう。また、選挙結果が年内に確定しないこともあり得るでしょう。

——トランプ氏の政策は内向きには自由主義である一方、外向きには不法移民の締め出しや関税の引き上げなど米国の孤立・ブロック化を図るもののようにみえます。当選が決定した場合、グローバル化に背を向ける政策が米国経済に良い影響をもたらすのでしょうか？

当選前の発言を当選後に、どの程度、どの優先順位で、どのタイミングで行うかを見極める必要があります。なお、世界はグローバル化からブロック化に進んでいるのは確かです。これはコスト高となり、経済にはマイナスでしょう。

——ハリス氏は政策というよりも米国大統領としての指導力に疑問符がついています。当選が決定した場合、民主党内をまとめ、バブルを何着陸させられるでしょうか？

討論などを聞いていると抽象的なものが多く、具体的ではありません。したがって、かなり実効性に疑問符を付けざるを得ないと個人的には考えています。

——ここでク連銀の米 CPI（消費者物価指数）予想を掲載したのは、なぜでしょうか？

10 月、11 月と 2 カ月連続で、CPI の上昇が見込まれている状態を示したかったからです。これは今後の利下げへの逆風となり得る状態でしょう。

——米 WTI 原油が 10 月下旬に 70 ドルを割れたにもかかわらず、ク連銀が 11 月 14 日に発表される 10 月分の米 CPI（消費者物価指数）を反発と予測しているのは、なぜでしょうか？

ク連銀の持っているデータを確認できませんが、石油以外の要素が CPI を引き上げていることになります。

<資料 P5>

——上段に米国 PCE（個人消費支出）総合価格指数の前月比における需要・供給・不確定要因の寄与度を掲載したのは、なぜでしょうか？

月々で見ると、インフレの要素は安定していません。

——下段に米国 PCE 総合価格指数の前年同月比における需要・供給・不確定要因の寄与度を掲載したのは、なぜでしょうか？

一方、前年との比較を見ていくと、インフレの要因が、需要が強いためなのか、供給不足のためなのか明確になってきます。供給不足の要因が改善しないなか、利下げで需要を喚起すれば、当然インフレ率は高くなると考えています。

——つまるところ、米国の物価上昇が鎮静化してきたのは個人消費が減速しているからということでしょうか？

多少減速してきている状態ですね。ここで金利をかなり下げると、インフレは反発します。そのような状況でも利下げをするということは、景気の先行きが、かなり暗いということです。

——ここにも FRB（米連邦準備理事会）が利下げを進めた理由があるといえるのでしょうか？

第一弾とすれば、景気の減速に注目しているということでしょう。しかし、今後の利下げは高インフレを再燃させるリスクがあります。

——年末商戦での米国の小売売上高（年内は 11 月 15 日、12 月 17 日発表）も注目の指標となるでしょうか？

はい。今後の景気動向を見ていく重要な指標です。

<資料 P6>

——米国の財政赤字（対 GDP 比）を掲載したのは、なぜでしょうか？

すでに米国の財政赤字の対 GDP 比は拡大しています。そのようななか、どちらが勝っても、さら財政状況は悪化が加速しそうな状況ということです。

——米国の累積債務残高を掲載したのは、なぜでしょうか？

累積の数字を見ると、より状況が悪くなっているというのが見て取れます。

——歳出を減らしても利払い費を賄うためには増税は免れないのでしょうか？

利払い費がまた上がってくるとすれば、増税路線が続くのではと考えています。

【免責事項】

本テキストの図表・数値などは、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、その正確性・信頼性・完全性を保証するものではありません。

本テキストに掲載された情報・図表・資料は、あくまで情報提供を目的としたものです。証券など金融商品の売り買いを提案・勧誘するためのものとして、また証券など金融商品について助言・推奨するものとして、利用・解釈しないでください。

本テキストは一般向けに編集されています。特定の投資目的・特定の投資環境・特定の投資家を一切考慮していません。事前に専門家の適切な助言を受けるべきですし、最終的な投資判断は、個々人が個々の状況を考慮して、自らの責任で下すようにしてください。

本テキストに基づく行為の結果、発生した障害・損失などについて筆者およびバンローリング社は一切の責任を負いません。

本テキストに記載された URL などは予告なく変更される場合があります。

本テキストに記載されている会社名・製品名は、それぞれ各社の商標および登録商標です。